



JAMCA ニュース

No.72

2012 年 1 月 1 日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
〒160-0015 東京都新宿区大塚町 31
ヴィップ新宿御苑 ☎03-3356-7066
〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3
☎03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

手に職をつける

岡山自動車大学校 理事長

全国自動車大学校・整備専門学校協会 理事

原田 三代治

毎年の入学式で言うことがある。「君たちは正しい選択をした。好きな車の整備技術を身に付けようとして、自動車整備専門学校を選んでくれた。これからの世の中は、どこの学校を出たかでは決まらない。何を学んできたか、何ができるか、どんな資格を持っているかが問われる時代になった。」

人間に行動の自由をもたせた車の重要性。そして、今後の可能性について話を進める。

不安そうに参列している保護者に向っては、今大学を出ても 30% は仕事が見つけられない。せっかく 4 年間高額投資してもフリーターで自己満足している若者が多い中で、毎年 100% の就職率。それも専門を生かせる仕事に就くことが出来る数少ない学校がこの学校なのだと。

日本のあり方

江戸時代までの日本人の生活は自己完結型であった。鎖国の中で経済のあり方は、他国に依存出来なくとも生きられる自立の道をたどってきた。物質文明に遅れていた面があっても、人々は互いに譲り合い、助け合って生きてきた。

東日本の大震災の中で気付かされた東北人のねばり強さ。自力で立ち上っていく姿に世界の人々は驚くと共に、今まで求めてきた物質文明の中で見失ったことを気付かされた。



右肩上がりの経済発展の中でスピードとチャレンジに明け暮れ、ゆとりを無くし、人とのつながりを失ったことに今更気付いたのではないか。ここで、日本のあり方を考えてみる必要がありはしないか。これから世界がどう動きどう変わるか、その中で日本の果せる役割は何かを。

これからの車の世界

例えば車の発展である。2 極分化されている。EV や HEV がもてはやされる車成熟社会の国もある。走っている大半の車が中古車で、大震災後の放置自動車が引き取られ再生されて使われている国もあると聞く。

一家 5 人が一台のバイクで走っている。命がけである。この光景を見て、インドの「タタ」という自動車会社社長は考えた。インドの庶民でも年収で買える安全な車が作れないかと。そして、20 万円台の車が出来上がった。アジアの労

働者の月給は約 2 万円弱と言われている。

中国の北京でも、大通りを埋め尽くしていた自車が今や車の渋滞に変わっている。自転車の横にリヤカーを付けたフィリピンのシクロタクシーがいつ車にとって代わられるかは分からない。

この大きな流れの中で最先端の技術の教育を受けてきた諸君に言いたい。ぜひ一度、世界に飛び出し車社会の現実を見てきてほしい。今、車整備の基礎・基本をみっちり身に付け、その技術・技能を生かしたボランティアをしながら一日 1 ドルの旅でも良いではないか。

海外から考えてみる。この体験は必ずや日本の自動車産業の中でも生かされるはずである。世界の中での日本の役割や環境・安全の面でも、必ず君たちが手につけた職が生かされていくはずだ。

80 年の人生まだまだ先は長い。ちょっとだけ回り道をしたって良いではないか。

■ CONTENTS ■

2 面	整備技術公開の取り組み
3 面	我が校自慢
4 面・5 面	電気自動車の普及に伴う整備業界の変化
6 面	協会トピックス
7 面	活躍!! 卒業生・地区通信
8 面	私の教材活用・お知らせ・編集後記